

# 宮古市藤原地区民生委員児童委員協議会

(平成 27 年 1 月)

## 1 はじめに

宮古市藤原地区は、市内を西から東に流れる閉伊川の南側で、市の中心部にある市役所の対岸に位置しています。世帯数は 704 世帯で、民生委員・児童委員 8 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しています。

東日本大震災では、委員 5 名が住宅に被害を受けました。

## 2 発災時の地区の様子

国道 45 号線より海側に位置する地域は、埠頭に積んであった木材が流され家屋を破壊するなど甚大な被害を受けました。

また、閉伊川では津波に押し上げられた船が橋や鉄橋に当たり、バリバリと大きな音を立てて壊れる様子が見えました。

小学校では毎年 9 月に高台への避難訓練を実施していたこともあり、震災当日の 15 時には児童・教師約 100 名全員の避難が完了しました。

16 時頃、町内の様子を確認し、がれきや海水がいっぱい子どもたちが家に帰れる状態ではないことを校長に伝え、委員が所有する空き家を開放しました。当日は夕方から降雪があり、薪ストーブや焚火で暖をとりながら一夜を過ごしました。



J R の鉄橋の北側半分が崩壊



国道 45 号線の様子

## 3 現在の地区の様子

被災した地区は借地が多く、高齢者の自宅再建は困難で、空き地が目立ちます。

また、北側半分が壊れた J R の鉄橋など修復できないままの施設等があり、いまだ復旧の見通しが立っていません。



壊れたままの J R の鉄橋



現在の国道 45 号線の様子



空き地の様子

## 4 活動紹介等

### (1) 委員活動

発災直後は、被災した委員を含め全員で避難所を中心に見守り支援活動を行ない、その後、在宅被災者まで対象を広げていきました。

平成23年7月には2か所、8月には1か所の応急仮設住宅団地が完成し、現在はその住民の見守り支援活動も行なっています。

また、平成23年12月には自治会とボランティアの方がたの協力を得て、応急仮設住宅で餅つき大会、焼き肉会、女性のための美容教室等の交流会を開催しました。交流会には仮設住宅近隣の住民も参加し、子どもからお年寄りまで参加した賑やかな会になりました。

現在は、毎月の定例会で市社協の生活支援相談員と応急仮設住宅の住民の様子等について情報交換し、連携して見守り支援活動を行なっています。

また、これまで日曜日の日中に定例会を開催していましたが、自営業の委員が多く欠席が目立っていたため、平日の夜間開催に変更したところ出席率が良くなりました。

### (2) 小学校の様子

小学校では発災直後の3月には卒業式を実施できず、年度が変わった4月に行ない、また、毎年5月に行なっている運動会も9月になってやっと行なうことができました。それでも校長先生からは「震災後も子どもたちは欠席者もなく元気に登校している」と話がありました。

また、平成25年には、5年生を対象にハザードマップ作りを行ないました。マップ作りには委員も参加し、子どもたちと意見交換しながら一緒に作成しました。

## 5 おわりに

ここ数年、全国各地で集中豪雨、洪水、竜巻、地震及び火山災害等により甚大な被害が発生しています。海、山、川、平地のどこで災害が発生するかわかりません。「想定外」「今まで経験したことがない」等の言葉ですませるのではなく、地域での防災活動、避難マップの作成等の対策が必要だと思えます。また、防潮堤、砂防ダム等を過信することなく、早めに避難することが重要です。

最後になりましたが、東日本大震災では国内外の多くの皆様から多大なご支援を頂戴し、誠にありがとうございました。おかげさまで「生きる勇気」をいただき、「助け合いの精神」を持って頑張ることができました。皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。